

# 2021年度 JESMA 研究支援制度 研究成果報告書

一般社団法人 日本経験サンプリング法協会 殿

所属名 東邦大学医学部心身医学講座

研究代表者 氏名 橋本 和明

標記の件について、研究結果を下記の通りご報告致します。

## 記

1. 研究課題名	機能性めまいの日常生活下における心身相関のメカニズムの解明 -a pilot study-																																		
2. 目的	機能性めまいでは心理的な要因が慢性化・難治化に影響を及ぼしていると考えられているが、臨床において約 80%では原因が特定されていないと報告されている。本研究では exkuma によるアンケートフォームを作成し、スマートフォンを用いた経験サンプリング法によって機能性めまいの病状と心理的要因の関連性を日常生活下において評価し、治療介入の糸口を探索することを目的とした。本研究ではパイロットスタディとして、small size のサンプルでめまい症状と気分 (Positive 感情および Negative 感情) の関連を検証した。																																		
3. 期間	令和 3 年 9 月から令和 4 年 5 月に研究説明を実施、同意書を取得した上でエントリーとした。																																		
4. 結果	<p>参加者は男性 2 名、女性 9 名の計 11 名の機能性めまい症例、データ数は 323 であった (回答率 73.9%)。平均年齢は 43.5 歳であった。各変数の級内相関係数はいずれも統計学的に有意 (<math>p &lt; 0.01</math>) であり、階層データであることを確認した。レベル 1 の階層線形モデルでは Positive 感情は負の固定効果、Negative 感情は正の固定効果を認めた (<math>p &lt; 0.01</math>)。レベル 2 のモデルでは集団平均中心化した Positive、Negative 感情のスコアは同様の</p>	<p>効果を認めたが、全体平均中心化したスコアは有意な影響を認めなかった (Table1)。</p> <p>Table1.階層線形モデルによる分析結果</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>固定効果</th> <th>係数</th> <th>標準誤差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>切片</td> <td>4.162</td> <td>0.615 **</td> </tr> <tr> <td>Positive</td> <td>-0.121</td> <td>0.029 **</td> </tr> <tr> <td>Negative</td> <td>0.197</td> <td>0.050 **</td> </tr> <tr> <td>Positive (集団平均)</td> <td>-0.120</td> <td>0.080</td> </tr> <tr> <td>Negative (集団平均)</td> <td>-0.051</td> <td>0.061</td> </tr> <tr> <td>Positive・Negativeの交互作用</td> <td>-0.009</td> <td>0.004</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>変量効果</th> <th>標準偏差</th> <th>分散</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>切片</td> <td>1.915</td> <td>3.667 **</td> </tr> <tr> <td>Negative</td> <td>0.143</td> <td>0.020 **</td> </tr> <tr> <td>残差</td> <td>1.246</td> <td>1.553</td> </tr> </tbody> </table> <p>*<math>p &lt; 0.05</math>, **<math>p &lt; 0.01</math></p>	固定効果	係数	標準誤差	切片	4.162	0.615 **	Positive	-0.121	0.029 **	Negative	0.197	0.050 **	Positive (集団平均)	-0.120	0.080	Negative (集団平均)	-0.051	0.061	Positive・Negativeの交互作用	-0.009	0.004	変量効果	標準偏差	分散	切片	1.915	3.667 **	Negative	0.143	0.020 **	残差	1.246	1.553
固定効果	係数	標準誤差																																	
切片	4.162	0.615 **																																	
Positive	-0.121	0.029 **																																	
Negative	0.197	0.050 **																																	
Positive (集団平均)	-0.120	0.080																																	
Negative (集団平均)	-0.051	0.061																																	
Positive・Negativeの交互作用	-0.009	0.004																																	
変量効果	標準偏差	分散																																	
切片	1.915	3.667 **																																	
Negative	0.143	0.020 **																																	
残差	1.246	1.553																																	
5. 結論	本研究では機能性めまいにおいて、日々の測定レベルでは Negative 感情によりめまい症状は増強し、Positive 感情により減弱した。しかし、個々人の測定レベルでは有意な関連を認めなかった。すなわち、Negative 感情または Positive 感情の強弱は、個人の特性よりもその日の状態がめまい症状に影響する可能性がある。つまり、症例によらず Negative 感情を弱め、Positive 感情を高めていくことでめまい症状を軽減させることを意味し、心理療法や薬物療法の介入起点となる可能性が示唆された。但し、本研究はパイロットスタディであり、サンプルサイズ等を考慮すると、結果の一般化や統計学的な視点で課題が残るため、調査を継続する中でさらなる検討を実施していきたい。																																		
6. 研究成果発表	本研究の一部は第 132 回日本心身医学会関東地方会ならびに第 13 回日本耳鼻咽喉科心身医学研究会で発表した。今後、症例集積の上で論文化する予定である。																																		